



# きじむんのとぅ〜ちゅいむにい〜 古文書入門編

## 第11回 古文書の蔵書印・蔵書票

キーワード：蔵書印 蔵書票 伊波普猷、仲原善忠、島袋源七

ハイサイ！ キジムン ヤイベーン！（こんにちは。きじむんだよ。）

ウチナーヤ フユン アチサンチ カンチゲーサーニ ヤマトウ ガクソーガ ガタガタ フトゥフトゥ ソーン。（沖縄は冬も暑いと勘違いして、他府県の学生がガタガタ、ぶるぶる震えているよ。）

今月は、蔵書印・蔵書票のおはなし。蔵書印は、自分の本に所有を示すオリジナル印鑑を押すもので、東洋では一般的。蔵書票は、西洋の文化で、洋書にオリジナルイラストを貼ります。どちらも美しいデザインが多くて、コレクターグッズにもなっているよ。

琉球大学附属図書館には蔵書印や蔵書票のついた書籍がたくさんあるので、その美しい世界をほんの少し紹介します。蔵書印は、一つの本にたくさんの蔵書印が押されていることもあって、歴代の所有者を知ることができます。

本館の貴重書コレクションでは、沖縄学の父といわれた伊波普猷（1876～1947）の伊波普猷文庫が有名です。伊波の蔵書印は、「伊普」という数センチの小さな楕円形の印鑑があります。また、「E」 という伊波普猷のイニシャルを組み合わせた印鑑があります。（右図参照）



沖縄の歴史やおもろの研究に大きな業績を遺した仲原善忠（1890～1964）の文庫が当館にあります。仲原の印鑑は、「仲原蔵書」という大きなもの（左図）。

沖縄の土俗・民間伝承研究に大きな足跡を遺した島袋源七（1897～1953）の蔵書印は、「源七」という小ぶりの印鑑です。（右図）



日本の古書店主の反町茂雄（そりまちしげお）の蔵書印は「月明荘」という印面で、これは国宝か重要文化財級の古文書にしか押されませんでした。古文書のなかには、デザインに凝りすぎてなんと書いてあるのか読めない印鑑もあります。沖縄県内の古書店が使っていた蔵書印もあります。もちろん、だれが使っていた印なのか不明のものも多く、頭を悩ませることが多いです。

蔵書票は、紙にプリントして書籍に貼り、所有者を表すものです。本館が作成した蔵書票もあります。本館が作成した蔵書票は、伊波普猷文庫、仲原善忠文庫（右図）、松田貢文庫、奥里将健文庫、宮里政玄文庫があります。蔵書票は1枚の紙に文庫名と琉球大学の学章の図、その下に琉球大学志喜屋記念図書館と記されています。



本館が作成した蔵書票は、全て琉球大学の首里キャンパス時代に作成されたもので、現在は新たな蔵書票の作成は行っていません。蔵書票は西洋文化なのですが、琉球大学の首里キャンパス時代には、蔵書印はなく蔵書票を作っていました。これは、琉球大学が米軍統治下で運営されていたことに由来するのでしょうか。そこから琉球大学の歴史が感じられます。



古い本を手にとるときには、以前の所有者の蔵書印や蔵書票を探してみるのも楽しみのひとつです。あなたも素敵なデザインや意外な所有者に出会えるかもしれません。（AS）

👉 デジタルアーカイブはこちらから

琉球大学附属図書館 沖縄資料担当 平成30年2月1日発行